



記念  
インタビュー  
Interview

# 「ツルを守って40年。四万十市への定着を目指して」

澤田佳長氏(野生生物環境研究センター 所長)

●ツルは四万十市にすいぶん古くから渡来していたようですが、先生が初めてツル見たのはいつですか。

澤田先生：昭和18年11月に、宿毛市山田の堤防の上にマナヅル2羽が降りているのを確認していましたが、その後、太平洋戦争が激しくなり、確認できなくなりました。

●初めてツルを撮影した時のことをお話しください。

澤田先生：昭和40年頃からツルのような大きな鳥を見たという噂が流れていたのですが、記録等はなく、昭和44年に突然、宿毛市職員が遠くから撮影したという写真が届きました。拡大してみると、まぎれもなくマナヅルでした。

そして、記念すべき昭和47年。旧中村市の辰の口(生ノ川)にツルと思われる鳥がいて知人の新聞記者から情報が飛び込んできました。私は、300ミリのレンズをカメラに付け現地向かい、生い茂ったヨシの陰から探してみました。すると、中筋川の堤防近くの田にマナヅル2羽が降りて羽づくろいをしていました。ヨシの中に水路があったので、横這いになり、やっとの思いで30mほど進んで、何とかカメラを構えシャッターを切りました。翌日の新聞5社の紙面で「中村市にツル渡来」と大きく報道されました。この冬から保護調査を開始しました。

最初にツルが越冬したのは、今、当会で越冬地づくりをしている江ノ村です。水田の間を流れる小川には魚も多く、ニホンカワウソが確認されるほどよい環境でした。コウノトリとマナヅルが同じ水田でえさを取る姿も撮影できましたよ。

●保護の取り組み、ご苦労も多かったのでは？

澤田先生：そうですね。定着に向けて模索の日々でした。餌付けも試みました。中筋川と四万十川の河口域に2カ所と、中筋川の中流域に3カ所のえさ場を設定して、毎日早朝と夕方遅くに巡回しました。

観察を続けるといろいろわかってきました。ねぐらには四万十川を利用し、種類によって寝る場所が決まっていた。ナベヅルは入田やナギ林の近く、マナヅルは井沢の少し上流の中州で寝て、明け方のまだ薄暗い時間にえさ場へ移動します。家族単位や幾つかのグループで移動したり、ナベヅルとマナヅルが一緒に行動したこともありました。

●ツル保護活動はこれからも続きます。今後に向けた抱負など、お願いします。

澤田先生：四万十市には毎年数多くのツルが渡来しますが、なかなか越冬してくれません。現在、地元の人たちと国土交通省中村河川国道事務所が協働して「ツルの里づくり」を進めています。ツルを保護することは、地域の農業活性化にもつながるはずです。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



旧中村市で初めて  
ツルが越冬した時の写真

左の2羽が  
マナヅル、  
右はコウノトリ



平成20年度に  
越冬した9羽の  
ナベヅル

澤田先生は、ツルが  
いる間、雨の日も雪の日も  
欠かさず観察を  
続けられたそうです

ツルを見かけたら  
お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内  
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451  
mail:naka10@cciweb.or.jp

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 この会報は、2012年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。



四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する  
「ツルの里」をめざして

Vol.18 ●発行日／平成25年2月20日 ●発行／四万十つるの里づくりの会  
http://www.shimanto-tsuru.com

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

# 四万十 つるだより

## 四万十市でのツル保護活動が始まって40年！

四万十市(旧中村市)にはかなり古くからツルが渡来していたようですが、残念ながら記録には残っていません。初めて撮影に成功したのは、昭和47(1972)年のこと。地元の鳥類の専門家である澤田佳長先生(野生生物環境研究センター所長)が、2羽のマナヅルが田んぼに降りている姿を自慢のカメラでキャッチしました。その年から、澤田先生はツル保護のための調査を開始。ツルの渡来する秋から冬にかけて毎日行動を記録し、時には餌付けを試みたりもされました。調査を毎年継続していくなかで、しだいに仲間も増え、平成18(2006)年3月には「四万十つるの里づくりの会」も設立され、現在に至っています。

振り返れば、ツル保護活動も今年度で40年。これからも「ツルの里づくり」の取り組みは続きます!!



四万十市に  
よく渡来する  
のはこのツル!

ナベヅル

## 四万十市周辺で確認されているツルたち

このように、たくさんの種類のツルが確認されていることは、四万十市周辺に良好な環境や生態系が残っていることの証明ともいえます。



マナヅル



アネハヅル



タンチョウ



カナダヅル



ナベグロヅル

※このほか、「かご抜け鳥」(飼育されていた鳥が逃げ出して、自然の中で増えたもの)とされるカンムリヅル、オオヅルの記録もあります。

裏面に

澤田先生の記念インタビューを掲載! ぜひご覧ください。